

日本比較文化学会

JACC 比較文化会報

本部事務局：〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149番地 宮城教育大学
佐藤静研究室

会長室：〒379-0124 群馬県安中市鷲宮3413-3

NPO法人国際比較文化研究所内 太田敬雄 mtharunac@xp.wind.jp

会報編集室：〒370-0068 群馬県高崎市昭和町53 新島学園短期大学内

高山有紀研究室 y-takaya@mail.neesima.ac.jp

学会HP：<http://www.hikakubunka.jp/>

《第29回全国大会》開催のご案内

中国・四国支部長 奥村訓代

第29回全国大会を2007年6月9日(土)に四国地区で開催することとなりました。会場となる徳島県は、渦潮で有名な鳴門大橋や、大塚国際美術館、勿論阿波踊り記念館などもあり観光にも適したすばらしい環境にあります。また会場となります徳島文理大学は、明治28年(1895)、村崎学園創立者、村崎サイ氏によって創立され、「あなたがあなたである何か」を見つけてください。人として誇れるものを見つけるための大切な時間がここにあります。」をモットーに教育されている伝統ある大学です。

きっと、参加される皆さん一人一人が、新しい「あなた」を発見できるかも知れませんね。食べ物良し、景色良し、人情良し。あとは、発表の成果のみ!!

皆様のご参加を名物料理、美味しいお酒、並びに暖かい人情でお待ちいたしております。1人でも多くの皆様のご参加をお待ちしております。

大会事務局からのご案内

日時：2007年6月9日(土) 場所：徳島文理大学 徳島キャンパス 〒770-8514 徳島市西浜傍示180 電話(代)088-622-9611 で開催される事が決まりました、大勢の会員の参加を願い、皆様と大会の場でお目にかかることを楽しみにしております。

大会日程：9時～9時50分 編集委員会 10時00分～10時50分 理事会

10時30分～11時00分 受付

11時00分～11時50分 講演

12時00分～12時40分 昼食

12時45分～14時45分 シンポジウム「グローバル化とこれからの日本」

☆現在パネリストを各支部から募集中です。

15時00分～17時00分 研究発表

17時10分～17時40分 総会

17時45分～

懇親会（キャンパス内カフェテリア「パウゼ」にて）

大会委員長 藤岡先生（連絡先 kfujioka@tokushimabunri-u.ac.jp）

●シンポジウム発表者（各支部代表）並びに発表レジメに関しては以下の通りです。

シンポジウム：（仮）「グローバルの必要性」発表者は、3月末までに、

発表希望者：4月30日までにレジメ（A4・1枚）形式自由をお送りください。

●なお、「希望者には宿泊・名所等のインフォメーションを行いますので1ヶ月前までに大会委員長宛お知らせください。」とのことです。

送り先：大会委員長の藤岡先生または中国四国支部長、[奥村先生 koku@cc.kochi-u.ac.jp](mailto:koku@cc.kochi-u.ac.jp)までお願いします。

会長室より

日本比較文化学会会長 太田敬雄

2005年の大会で会長に選出されて以来、一年を掛けて「会則」の改定とホームページの作成に取り組むと同時に学会としての組織の在り方を見直して参りました。その結果、2006年の大会では会則改定を承認していただき、同時にそれまでの役員は全員任期満了で退任、新たな役員組織が選出されました。

以上のような経緯の中で、会長就任二年目ではありますが私は会長として第二期を務めさせていただくこととなりました。今年度の大きな課題としては「研究倫理基準」および「研究倫理委員会規程」の作成、会員名簿の更新などがありました。6月以来、これらの課題に取り組んで参りましたが2007年2月17日の理事会で倫理基準と倫理委員会規程が承認され、直ちに発効となっております。会員の皆様にはぜひお目通しをいただきました、研究者の在り方を再度ご確認いただきたいと思います。

この二年に渡って行って参りました「会則」の改定、「研究倫理基準」の制定、さらには役員組織の改変等の大きな動きは、当然の事でしょうが地殻変動的な動きをもたらし、多くの会員に不安を与えてきた事と思います。その事を憂慮しながらも、時代の要請にあった学会への変身が迫られていたと思っております。

それらの戸惑いを乗り越え、学会員の皆様の研究活動にとって有意義な学会であり続けられるよう、残された任期を努めて参りたいと思っておりますので、会員各位のご協力をお願いします。

理事会報告（抜粋） 2007年2月17日開催

- 1、「研究倫理基準」「研究倫理委員会規程」制定・同時に発効（別紙参照）
- 2、会員名簿のアップデートと配布用名簿の作成について検討。「日本比較文化学会会員調査書」に最新情報をご記入の上、返送をお願いします。
- 3、今回の理事会での最も重要な案件として会長から要請及び推薦のあった山内信幸・奥村訓代の両氏を副会長に追加任命する事が承認されました。正式には6月の大会総会で承認していただく運びとなりますが、それまでも副会長格で栗原靖副会長と共に会長を補佐してJACCの運営の柱となっておられます。
- 3、支部成立要件の確認と支部組織改変について検討し、「全国大会を開催できる事」がその要件となる事を確認しました。6月大会で支部改編を御検討いただくこととなります。

4、ホームページを改定し、長谷部広報委員長の下で運営していただくことになりました。

5、全国大会への海外からの発表者に対しては何等かの支援を大会準備費（300,000円）に上乗せする形で対応する事とし、07年度の予算に計上することとしました。

《支部報告》

関東支部

2006年9月30日、駿河台大学御茶ノ水校舎において第11回研究発表会（例会）が開催されました。内容は以下のとおりです。

1、研究発表

水島孝司（東京海洋大学）「ESSCを取り入れた大学英語授業」

植原映子（NPO法人ウィメンズ・ウィルぐんま）

「『性差別撤廃条約』と『男女共同参画基本法』の波及に関する調査研究」

鈴木宣行（創価大学）「セネガルにおける『女性と教育』」

2、講演

「日本人学生の韓国理解についての一考察」（野口周一）

「国際学会参加報告」（栗原優）

2006年12月16日には、第12回研究発表会（例会）が高崎において開催されました。

1、星野純子（群馬県立松井田高校）「アメリカ文学における語りと共同体の役割」

2、前田浩（新島学園短期大学）「『スーパーアンカー和英辞典』の例文をめぐって」

3、中澤宏則（後藤静香記念館館長）「後藤静香を語る—深い〈水脈〉でつながるいのちの流れ—」

例会終了後は、忘年会を開き会員相互の親睦をはかりました。

なお3月17日には、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、第13回研究発表会（例会）を予定しています。

関東支部長 野口周一

関西支部

関西支部では2006年12月16日に開かれた総会にて、関西支部規約が承認されました。この規約が成立したことにより、今後確固とした組織体制のもと、いっそう活発な支部活動が展開されることが期待されます。本年度すでに開催された例会のプログラムは以下のとおりです。

10月例会 日時：2006年10月21日（土）14時30分～16時45分

場所：同志社大学今出川キャンパス 至誠館23番教室

I 研究発表 池田俊之（同志社大学非常勤講師）“Riddle Jokes”とpunsの関係

金志佳代子（兵庫県立大学専任講師）語彙習熟度に関する一考察—survey test
をもとに—

II 講演 深澤幸雄先生（天龍寺国際宗教哲学研究所）

英詩二題と禅の思想—ワーズワスとイエイツの場合—

12月例会 日時：2006年12月16日（土）14時30分～17時

場所：同志社大学今出川キャンパス 至誠館 24 番教室

I 研究発表

森村麻紀（同志社大学言語文化教育研究センター嘱託講師）19 世紀末～20 世紀初頭の視覚的媒体における身体

長谷部陽一郎（同志社大学言語文化教育研究センター専任講師）コト概念の主題化について—一日英比較—

II 講演

中井晨先生（同志社大学名誉教授）戦前のモダニズム—飛行機の心象を中心に—
関西支部長 山内信幸

中国・四国支部

2006 年度、中・四国支部は 11 月に 3 支部会（九州・関西・中四国）を開催した以外の活動が実質的には行えませんでした。その反省を受けて、2007 年は、支部運営委員会を 3 ヶ月に一度、研究会を兼ねて開催予定です。第 1 回の 4 月下旬を皮切りに、7 月・10 月・1 月を予定しています。

具体的な 2007 年度支部大会についても、4 月に決定する予定です。今年は、テーマ別部会を設け広く皆様の参加と発表を募りたいと考えております。また、美味しいカニを目当てに、中国地域での開催を計画中です。

詳細は、決まり次第メールにてご連絡出来ると思います。楽しみにおまちください!!

中国・四国支部長 奥村訓代

九州支部

10 月 8 日（日）に西南学院大学において「映画英語&コミュニケーションフェア」を映画英語教育学会と日本コミュニケーション学会と本学会の各支部主催で開催しました。大会実行副委員長として八尋春海（西南女学院大学）と市川郢康（久留米大学）が務めました。

11 月 25 日（土）に高知大学において第 3 回関西、中国四国、九州 3 支部合同部会を開催しました。九州からの発表者は下記の通りです。

1. 占部匡美（久留米大学・非）「日本語教育史における入門期教科書の基礎語彙の考察」
2. 佐田亜紀（久留米大学・非）「渡唐天神と天神縁起」
3. 大木正明（大分高専）「『映画の舞台』紹介と『名セリフ』紹介の授業展開」

第 19 回九州支部会を 3 月 17 日（土）に福岡国際大学において開催します。

九州支部長 市川郢康

《編集後記》

1 月末、会員のみなさんに全国大会のご案内をする時期となっていたことに気づき、大急ぎで編集に取りかかりました。記事の執筆をお願いした方々には、大変ご迷惑をおかけしました。ありがとうございました。（高山記）

高山先生はじめ、大勢の方にご迷惑をお掛けしながら、やっと会報の発行と『比較文化研究』74 号、75 号の発送にこぎつける事が出来ました。体調万全ならず、作業が遅れましたこと、特に 11 月には完成しておりました 74 号の発送が大幅に遅れましたこと、編集担当の栗原優先生にお詫び申し上げます。（太田記）